第2回 阿賀町地域公共交通協議会
【事例資料（参考配布資料）】

平成29年7月3日
北陸信越運輸局
交通政策部 交通企画課

公共交通政利用促進キャラクター「 のりたろう」

北陸信越運輸局

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

この資料について（配布趣旨）

北陸信越運輸局

第1回協議会（本年4月4日開催）においてご質問がありました、阿賀町と人口規模が同規模である市町村の取組事例をご紹介するため、本資料を参考配布させていただきます。

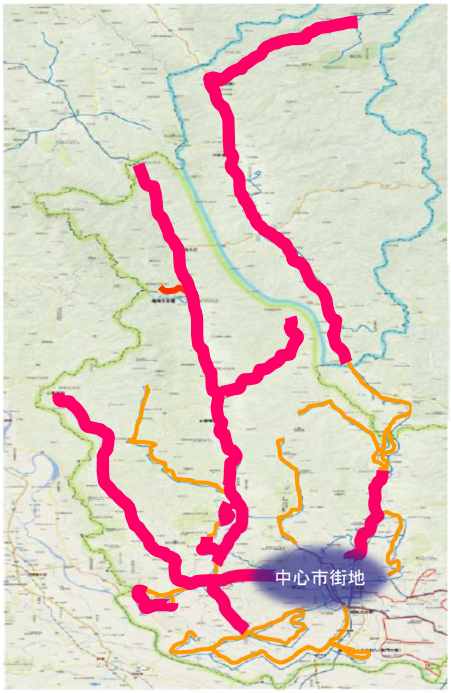
（参考：事例活用時の注意点）

- 地域特性や地形、置かれている状況等は市町村により異なりますので、他の市町村の事例は飽くまで「参考程度」に留めておき、阿賀町の地域特性や地形、置かれている状況等に応じて、公共交通に関する具体の取組を検討する必要があります。

交通政策以外の分野との連携事例（茨城県常陸太田市（人口5万人））

北陸信越運輸局

○ 公共施設等が集積する常陸太田地区への持続可能な移動手段を確保するため、民間事業者への路線の統合を図り、効率的で一体的な交通サービスの提供を実現



路線バス・市民バス・みどり号が重複していた路線

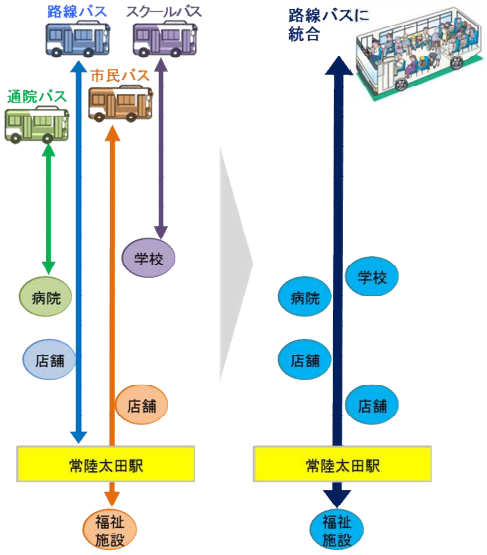
路線バス・市民バスが重複していた路線

背景・課題

- ✓ 路線バス、コミュニティバス（市民バス）、無料通院バス、スクールバスが同じ路線を重複して運行
- ✓ 運行日（週1～7日）、ダイヤ・本数、運賃体系（距離制、200円均一、無料）の棲み分けがなされておらず、非効率な運行

具体的な事業

- ◆ 路線バス以外のバスを廃止し、路線バスに統合
- ◆ 運行日を毎日（平日）とし、ダイヤ・本数も調整
- ◆ 運賃体系も分かりやすい3段階制に変更（200円、300円、500円）



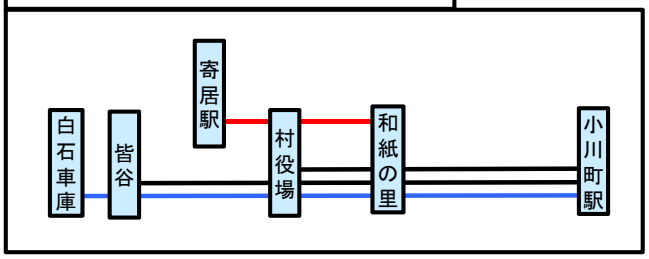
人口の少ない地域での取組事例（埼玉県東秩父村（人口3千人））

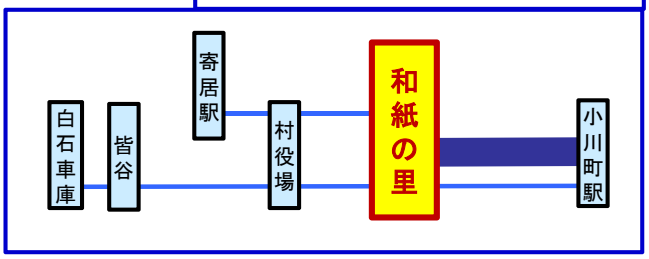
北陸信越運輸局

複合施設を小さな拠点として、地域公共交通ネットワークを再編

○村営バスと民間バスを統合

○地域住民及び観光客の拠点とするため、『和紙の里』をハブバスセンターとして整備して、ネットワーク路線を再編



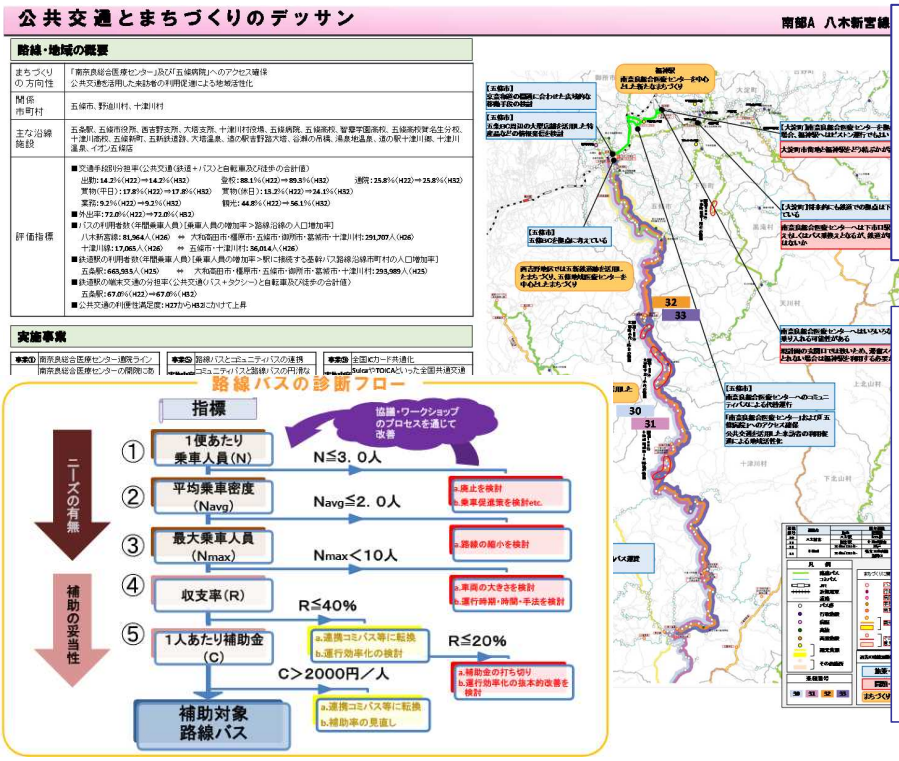


【参考事例①】データに基づきPDCAサイクルを回す事例（奈良県）

北陸信越運輸局

○ 路線ごとに、ニーズの有無や補助の妥当性を判断するための評価指標を設定

○ 県、市町村、交通事業者等による協議・ワークショップを、地域別、グループ別で開催し、まちづくりの動向・路線のあり方などを『公共交通とまちづくりのデッサン』として表現



背景・課題

◆ 交通事業者からバス路線の大幅な見直しに係る協議の申し入れを受け、**県知事を会長とする「奈良県地域交通改善協議会」を設置**

◆ 移動ニーズに応じた交通サービスの実現を目指し、絶えず新たな地域交通の課題を受け止め、検討を行っていくため、奈良県地域公共交通網形成計画を策定

徹底した調査に基づく継続的な取組

◆ **毎年度、運行状況・利用状況などのデータに基づき、評価指標と照らし合わせた診断を実施**

◆ 診断結果と改善策を取りまとめた『バスカルテ』を作成し、グループごとに「路線別検討会議」を開催

◆ 協議、ワークショップにおいて、福祉・観光・産業等に係る施策との連携を踏まえて、公共交通とまちづくりのあり方、利用促進策等に関するアイデア出しを実施

◆ **取組の実施主体や役割分担を明らかにした「公共交通とまちづくりのデッサン」を作成**するとともに、その進捗を関係者間でチェック

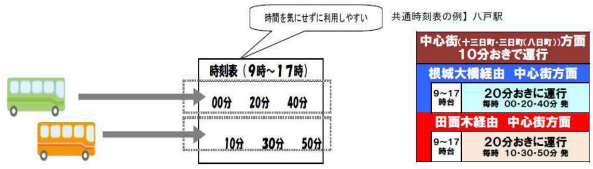
○ 網形成計画：平成２８年２月１７日作成

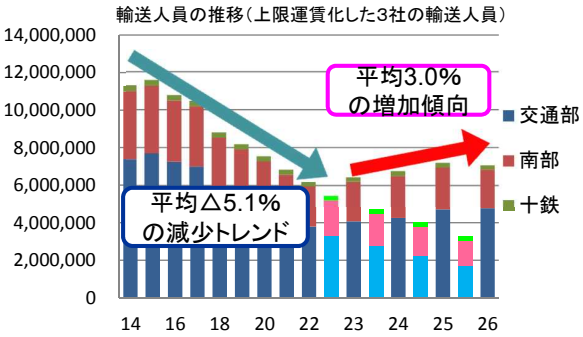
【参考事例②】ソフト面で工夫する事例（青森県八戸市（人口23万人））

北陸信越運輸局

○市内の幹線軸の利便性向上

・八戸市交通部と南部バスの共同運行
・10分等間隔ダイヤ化
・共通定期券制度
・上限運賃化



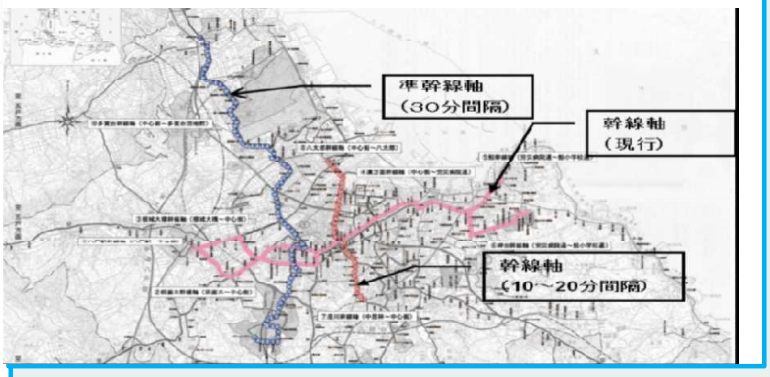


○夜間小型乗合運行（新幹線八戸駅～中心街）

・最終新幹線に接続させた小型タクシーを本格運行し、一定数の利用者を確保している。

○モビリティマネジメントの実施

・平成24年度に、観光客や市民のモビリティをコーディネートする公共交通アテンダント「はちこ」を創設。
・路線バスがより市民にとって親しみやすく、より身近になることを目的とした活動（バス乗り方教室など）を実施。



○利便性の向上

・事業者共通のバスマップ「バスマップはちのへ」を発行。
・公共交通アテンダント「はちこ」による（JRや青い森鉄道等広域幹線への乗継ぎを含めた）乗継案内。